

が、論文集はほとんど置いてないです。

所属大学以外の図書館には日本財団の図書室があります。かなりの書籍を収めていますが、出版年代はかなり古いほうです。学会誌はある程度置いてありますので、最近の論文を読みたいときには助かります。

参考書の入手方法についてですが、個人的なものは、日本国際教育協会（AIEJ）の支援制度があります。「帰国外国人留学生に対する専門資料送付」というプログラムで、留学生が帰国後、3年間にわたって専門資料を送ってくれるものです。これは本人が帰国する前にあらかじめ希望書籍のリストを書いて申請しておきます。

大学への参考書の提供に関しては、日本財団の援助が行われています。毎年書籍購入のための援助金が各大学に日本財団から支払われているようです。参考書の注文は大学側が各自行うことになっています。問題は最新の書籍情報がないことや注文から入手までかなり時間がかかることなどです。

最後に、帰国後、研究を続けていくときに問題に思われる点についてお話したいと思います。第1に、毎年発行されている参考書あるいは発表された論文に関する情報を調べたいとき、どのようにすればいいかわからないということです。第2点目は現地では同じ研究をしている人達を集めて研究会を開くことはあまりないため、研究者の交流がほとんどないということです。

イタリアの日本研究事情

セレナ・ヴァラニ

私はイタリア人ですが、現在お茶の水女子大学で研究生として勉強しています。自分の経験によると、イタリアで研究する上の困難な点はたいてい図書館とコンピューターの使用に関すると言えると思います。

大学卒業論文のために資料を集めようとしたとき、次のような問題に直面しました。まず、イタリアの図書館の開館時間はずっと限られています。多くの場合はある図書館から別の図書館に本を送ってもらうことも無理ですし、可能な場合でもずいぶん時間がかかります。公共ではなく、プライベートで専門的な図書館もありますが、それはよくボランティア活動でやっぴまして、役に立つ資料が多く集めてあるのに、毎日二時間しか開いていないような研究室で、それに本を貸し出したりしないシステムになっています。

コンピューターの使用に関する問題はほとんど内蔵のイタリア語版のシステムに関わっていると言えるでしょう。イタリアで使われている一般的なコンピューターは日本語の文書を読み取ることができず、特別なソフトがないので、日本語の文字が読み取れないことによってインターネットのページも見ることができず、図書検索さえ不可能になってしまいます。